

## 心に残る私の一冊

うつくしく、やさしく、  
おろかなりー

## 私の惚れた「江戸」

杉浦 日向子著(2006年)

江戸時代の価値観や 著者は1988年に  
遊藝、食事情といった「風流江戸雀」で文芸  
文化について雑誌や単 春秋漫画賞を受賞。江  
行本に書いたエッセー 戸風俗研究家としても 歳の亡くなった。  
なをまとめた本。 活躍、2005年に46 かによみがえり、江戸 から伝わる。  
に生涯をかけて惚れ込  
んだ著者の熱意が随所



友人に江戸時代について 考になるのではないでしょ  
書かれた本を薦められたこ うか。  
浦さんが好きな江戸に通じ  
るのです。

とをきっかけに、この二、 それから、江戸の人々は 約二百六十年続いた江戸  
三年、江戸に関連した本を 創意工夫に満ちた遊びをど という平和な時代に、とて  
いろいろ読みました。 ことん実践していたそう も豊かな暮らしがあったと  
中でも、この本は、江戸 で、会話にはさむ駄じゃれ 思うと、日本も捨てたもの  
の人々の暮らしぶりや著者 もその一つ。楽しむために ではありません。  
の杉浦日向子さんが江戸を 時間や労力を惜しまないと 江戸時代に魅力を感じる  
好きになった理由がわか り、共感する部分も多い作 いる「SHINTOKU空 たいと決して思いません。  
品です。 想の森映画祭」と共通する 江戸の人々の価値観と私が  
印象に残っているのは、 ものがあります。 映画で表現したものは共通  
「持たず」「急がず」とい 私が監督を務めたドキュ 生きているために必ずしも必  
う江戸時代の価値観。物に メンタリー映画「空想の森」 していません。

## 人々の価値観に共感

執着しないシンプルな生活 の舞台は新得です。「農」 要ではないことも、大切に  
を送り、職人たちは手暇 ある暮らしの何げない日常 する。その時々を染し、  
かけて仕事を丁寧に仕上げ を描きました。 一生懸命生きる…。

また、人口が集中し、世 間が流れ、その時々になら 代に生まれても、そんな姿  
界一の大都市だった江戸の んと向き合いながら暮らす が魅力的なのだ改めて認  
大部分は地方出身者が構成 人々の姿がありました。杉 識しました。

経歴を問わないルールがあ ったといえます。 たしろ、ようこ 196 支える。2001年から本  
江戸の人々のように、先 7年8月2日生まれ。東京 格的に撮影を始めたドキュ  
入観などにとられず、出 都出身、神奈川県育ち。9 メンタリー映画「空想の森」  
会ってから関係構築してい 4年、帯広市に転居。タウ では監督、撮影、編集、ナ  
く姿勢を自分も大切にした 新得町新内では毎年開かれ レーションを担当。映画は  
「SHINTOKU空想の 今年3月に完成し、新得町、  
森映画祭」事務局で裏方を 帯広市で上映した。



今春、新たな再出版をしたニューフェイスのために、各界の有名人に「心に残る私の一冊」  
を紹介してもらいました。書物は、人生の指針になることもあります。参考にしてみてください。  
掲載は15日までに3回。この間は「スクール通信」を休みます。